



日本アマチュア無線連盟



通巻 第 500 号 記念特集

土浦アマチュア無線クラブニュース 平成 29 年 7 月号

◆ ◆ ◆ お 知 ら せ ◆ ◆ ◆

事務局 JH1WGP 大木 武

★ 7月1日(土)～2日(日)

第38回オール茨城コンテスト第二部/アイボール会(於:竜ヶ峰山荘)

\*\*\* 参加各局お忘れにならないように \*\*\*

なお、早朝に雑草退治を行います。ご協力をお願いします。

★ 茨城・栃木合同ミーティング(ホスト:JARL 栃木県支部)

- ・日時 7月29日(土)～30日(日) 受付:29日13:00～16:00、開会:18:00
  - ・場所 日光市土呂部高原 CAMP IN ドロブックル (詳細:HP参照)
  - ・竜ヶ峰山荘8時集合、資材積み込み後8時30分頃出発(良い場所確保の為)
  - ・模擬店:かき氷 ・ジャンク品:希望者があれば持って行きます
  - ・宿泊はケビン2棟(Max14人分)を予約 1棟(Max7人)/¥12,000
- \*参加費 2,000円

----- 皆さまの参加をお待ちしています -----

★ 8月5日～6日 フィールドデーコンテスト/アイボール会

- ・場所 竜ヶ峰山荘 コンテスト参加及びアイボール会を開催します
  - ・コンテスト日時 8月5日(土)21:00～6日(日)15:00
  - ・アイボール会 日時 8月5日 午後5時(役員集合午後3時) 会費 1,000円
  - ・食事メニュー: BBQ、焼き鳥、など例年通り(酒類は個人で持参願います)
- 思っている以上に涼しいです。アイボール会だけでも参加してはいかがですか!

\* 例年7月8月は行事が多く忙しい処ですがよろしくご協力をお願い致します \*

★ 新入会員

JG1VNF 小林さん(土浦市天川)が入会されました。

皆様よろしく申し上げます。

500号特集寄稿者目次

JG1HJV . . . . . 3	7N1RMT . . . . . 12	JA1OVF . . . . . 22
JARL 会長 . . . . . 4	JF1KZD . . . . . 13	JJ1ATZ . . . . . 22
JARL 関東本部長 . . . . . 5	JG1JLU . . . . . 13	JL1LLM . . . . . 23
JH1UBU . . . . . 6	JG1IIF . . . . . 14	JN1VVE . . . . . 24
JARL 県部長 . . . . . 7	JE1OON . . . . . 14	JO1FYS . . . . . 25
JE1RLK . . . . . 8	JH1AAO . . . . . 15	7M4PLK . . . . . 25
JL1SUJ . . . . . 8	JI1DHL . . . . . 18	JG1TPW . . . . . 26
JR1CCP . . . . . 9	JI1WLL . . . . . 19	JF1MFE . . . . . 27
JA1CCN . . . . . 10	JO1LEA . . . . . 20	JH1WGP . . . . . 28
JA1LIS . . . . . 11	JQ1QMU . . . . . 20	JA1PBV . . . . . 29
JE1NVN . . . . . 12	JJ1VLM . . . . . 21	

# 会報 500号記念

会長 JG1HJV 森田 隆

土浦アマチュア無線クラブの会報 500 号の記念発刊おめでとうございます。発刊にご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

JA1PBV 伊藤さんがホームページにアップしてくださった 400 号の会報を見ると昨日のことにように感じます。しかし、当時中学生だった長男の JE1OPY は 23 歳に、小学生だった次男の JF1MCF は 20 歳の大学生に、やはり小学生だった三男も JG1FOM を開局し 18 歳の大学生になります。やはり月日は確実に流れていることを実感します。



400 号の会報から約 8 年、私も 57 歳になりあと 3 年で還暦を迎えます。あっという間の 8 年でした。自分としては特に変わっていないように思っています。

無線の世界では、今までの主流だった FM, SSB, CW に加え、RTTY や JT65 等のデジタル通信が多くなってきました。HF を聞いていると JT65 がかなり聞こえてきます。その反面 AM の電波はほとんど聞こえません。また、D-STAR 等のデジタルのレピータも整備され、全国（世界かな？）どこにいてもハンディ トランシーバーで交信できるようになってきました。40 年前には考えられませんでした。

昔、ウルトラマンで”バッチ”のような超小型の通信機で日本中どこにいても交信できることがとてもすごいと思いました。携帯電話の普及でそれも現実のものとなりました。この携帯電話の普及で、残念ながらアマチュア無線から去っていかれた方も少なくはないと思います。3 人の息子たちもいつも携帯電話（スマホ）は離しません、何かなければトランシーバーのマイクを握り電波を出すことはありません。自分自身も同じようになってきたようです。しかし、今でもアマチュア無線を楽しく続けています。

6 年前の 3 月 11 日の東日本大震災の時、私は職場にいました。2 階の教室にいましたがとても激しい揺れでした。当時は”ガラ携”でしたが緊急地震速報も鳴りませんでした。揺れが少しおさまった時、避難を呼びかける放送が入りましたが、停電のため「避難し・・・」で終わってしまいました。児童を避難させ、全員を無事に保護者に引き渡した後、携帯を見るとつながらない状態でした。有線の電話もつながりません。防災無線もバッテリー切れで使えません。外部との連絡が全くつかない状況でした。車に 430 のハンディがあるのを思い出し、スイッチを入れました。JR1VG の ID が聞こえました。停電後すぐに JA1IOA 矢口さんが発電機で動かしてくれていました。市役所にいた JF1MFE 久松さんとつながり、”体育館の照明が落下し、避難所としては使えない”という連絡ができました。その後も余震は続きましたが外部との連絡がつくようになりとても安心しました。アマチュア無線の存在の重要性和使命を強く感じました。そしてアマチュア無線を始めて良かったと改めて思いました。これからも続けて行きたいです。

無線を通じて知り合った仲間も、私にとって大切な宝物です。

土浦アマチュア無線クラブの活動では、事業担当、運営委員、副会長を務め、4 月からは“会長”という大役をおおせつかりました。これからもクラブ発展のために頑張りたいと思います。600 号の会報が発行される頃は、アマチュア無線の世界や土浦アマチュア無線クラブは、また多くの仲間たち、自分、息子たち家族がどうなっているのかがとても楽しみです。



## 土浦アマチュア無線クラブニュース第 500 号に寄せて



一般社団法人 日本アマチュア無線連盟  
会長 高尾 義則

このたびは、土浦アマチュア無線クラブニュース第 500 号の発行、おめでとうございます。

貴クラブは、昭和 31 年に茨城県の OM の方々により結成され、クラブニュースは昭和 49 年創刊と、大変長い歴史を有しています。貴クラブが誕生したころは、移動するアマチュア局が許可される（昭和 30 年）、JARL 総会で法人化が決議される（昭和 32 年）、電信級・電話級アマチュア無線技士の資格が制定される（昭和 33 年）など、日本のアマチュア無線の大転換の時期でした。また、貴クラブニュース第 1 号が発行されたころは、JARL NEWS が新聞形式から雑誌形式になる（昭和 48 年）、ハムフェアの前身である第 1 回全日本ハムベンションが朝霧高原で開催される（昭和 50 年）など、JARL にとっても忘れられない大躍進の時期でした。

クラブニュース創刊から今日に至る 43 年間、毎月の発行を続けられたご努力には、本当に頭の下がる思いで一杯です。このたび、記念すべき創刊第 500 号に寄稿するに当たり、あらためて最近の貴クラブニュースを読み返してみました。各号の表紙写真を見ると、貴クラブが毎月大変活発な活動をされていることがわかります。クラブ独自の行事から、JARL 茨城県支部行事への参加・協力、レピータ局管理団体の母体としての活動、地域社会への貢献など、地域に根差したアマチュア無線クラブとはかくありたいというお手本のように思います。

創刊第 500 号は、貴クラブにとって偉大な通過点です。決して立ち止まらぬよう、さらなる高みを目指して 600 号、700 号と続いていくことを願っています。JARL も昨年 6 月に創立満 90 年を迎えましたが、創立 100 年やその先を見つめて、会員増強と次世代の育成に取り組んでいます。貴クラブともども、アマチュア無線の輝かしい伝統を絶やさずに、さらに盛り上げていくために力を合わせてまいりたいと思います。

最後に、貴会並びに貴会会員の方々のご隆盛を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

## 土浦アマチュア無線クラブ会報 500 号発行によせて

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟

関東地方本部長 JH1LWP 島田 守康

土浦アマチュア無線クラブ会報第 500 号記念誌発行を迎えられますこと、誠におめでたく心よりお祝い申し上げます。



貴クラブにおかれましては昭和 31 年に結成され、そしてクラブ会報第 1 号の発行が昭和 49 年 10 月からとお聞きしましてそれから今日までの 42 年間、企業ならともかく趣味のアマチュア無線クラブの組織が絶えることなく続けての発行は、JARL の活動発展に寄与して頂いておりますこと感謝申し上げます。誠に有難う御座います。

さて私ごとになりますが、アマチュア無線との出会いは昭和 36 年私の家は繊維業を営んでおり卒業し家業を継ぐ予定でしたが、不景気で廃業することとなり機械や電気弄りが大好きで電気工事会社に就職致しました。

そして埼玉県都幾川村（現都幾川町）に天文台が新設されるのに伴い、電気工事を会社が請負、約 1 年半の間で 30 日程現場に通い工事致しました。

堂平山は標高 875m でハムのメッカですが、その頃も知る人知るで、車で登れる為天気の良い日には一人二人と来ては QSO を楽しんでいたので記憶しております。

そしてある日、自転車で来た一人が現場近くでハンディートランシーバー「T 社（現 K 社）の 50MHz AM 1W 機」の付属ホイップアンテナで CQ CQ で東京都内は勿論、遠くは福島県と QSO が出来たことを聞きビックリし、何時か私もアマチュア無線をやろうと興味を覚えた次第です。

その後も東京オリンピックに向け仕事は大忙しで、勉強する時間もない日々でしたが何とか従免試験に合格、そして昭和 43 年 4 月念願の「JH1LWP」の開局となりました。それから 38 年経ち平成 19 年から東京都支部長を 9 年間、昨年関東地方本部長をお引き受けすることとなりましたが、その支部長経験からしてアマチュア無線のさらなる発展は、クラブそれに併せ支部の活発な活動が原点であると思っております。

微力ではありますが少しでもクラブそして、支部の皆様のお役に立てればと考え活動しておる次第であります。

最後になりますが、クラブ会報次は第 600 号、第 700 号と続きますことご祈願致すと共に、貴クラブの益々のご発展、そしてクラブ員のご健勝とご活躍お祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 500号発行誠におめでとうございます。正に偉業です。

茨城県那珂郡東海村竹瓦

JH1UBU 根本紀正

土浦クラブには底力が脈々と息づいています。思い出話からその力を立証したいと思います。平成10年、小生は茨城県支部長でした。不摂生をしたために肺炎を引き起こし入院加療せざるを得なくなりました。支部大会は延期することもできず、その入院中に開催しなければならない状況でした。この年、土浦クラブがホストクラブとして決まっていたのが幸いでした。PHS電話で病室から連絡を取りながらその準備をしていただきました。大変な思いをしたことと察します。

来賓でお越しの原昌三JA1AN JARL会長は支部長不在で大会ができるものかどうか大変心配したそうです。しかし、大会が始まってみれば係員いわゆるクラブ員のチームワークでプログラムがどんどん進んで行き大変スムーズな進行を成し遂げたことはもとより会長執筆の書籍が大いに売れたそうです。原会長からあの時は一と言って、後日談として聞かされました。

土浦クラブは若い会員から熟年会員まで活動が活発です。無線の活動はもとより家族で楽しめる行事を取り組み楽しい活動、参加して良かったと思う行事を展開してクラブ員の心を一同に集めての運営ができているからこそ「人が集まるクラブ」となったと確信しております。

クラブの行事、無線技術の情報、パソコンの技術情報などクラブ報をとおして会員に毎月送致したことが事業展開の原動力となっていることは周知の確たるものです。

係の方の努力はいかばかりかと思えます。目に見えぬところで黙々として働くボランティアの精神は他の模範となることです。500号の記念にお祝いの言葉を述べさせていただきますこの上ない喜びです。お礼を申し上げますと共に土浦クラブの益々の発展をご祈念申し上げます。

**\*JH1UBU 根本様は、茨城県支部長、関東地方本部長、JARL 副会長を歴任されました。**

### ホスト土浦クラブ 県支部大会を成功す

去る、6月13日、14日と二日にかけて茨城県支部前夜祭、県支部大会と、一大イベントを土浦クラブが担当致しまして、無事、終了致しました。

これもひとえに土浦クラブの皆様のご協力のおかげと感謝致しております。

5月10日の第一回目の会議に始まり（通知漏れの会員さんには大変失礼を致しました）、二回、三回と、綿密に会議を行いまして、35名のクラブ員の方がお集まり頂きまして、ご苦勞をかけた。前夜祭には、25局が参加致しまして賑やかに祝宴が行われました。前夜祭の開会が県支部の方が遅れまして、小々遅れて、7K4QHD、(久松)の司会で土浦の紹介で始まり、実行委員長のJF1MFEの挨拶、県支部長の挨拶（ご病氣のため欠席）JG1WMN、葛綿さんが、メッセージを代読致しまして、その後、JA1AN 原JARL会長の挨拶を頂きました。

左;平成10年7月号を抜粋しました。

この時の会長  
JF1MFE 久松さんのあいさつ文です。  
(事務局より)

## 「クラブ会報 500 号」によせて

一般社団法人日本アマチュア無線連盟

茨城県支部長 JA1IOA 矢口 蕃

土浦アマチュア無線クラブ会報 500 号の発行おめでとうございます。

私も土浦アマチュア無線クラブに所属していますが、継続して 500 号とは素晴らしいことです。おめでとうございます。

私は 1961 年の 9 月 3 日に 7MHz AM（自作機）で JA2YN 局との交信が第一声です。

1964 年には東京オリンピックが開催され、東京は高速道路網が整備され様変わりし、新宿の西口の赤ちょうちん街などが無くなってしまいました。その頃、私は大学に通っていたので



JA1AII 鈴木さんと、よく秋葉原のジャンク屋さん巡りをしました。また、JA1VN（故矢口）OM に吉祥寺にラジコン部品を買いに行かされました。

1966 年大学を卒業し霞ヶ浦高校に勤めボート部の監督とし大分県日田、青森県大湊など高校総体に出場しました。

1970 年に学校を辞め新日本交易というジューク BOX やゲーム機械をリースする会社をはじめましたが 1979 年の OIL ショックで会社をたたみ、霞ヶ浦高校に再就職しました。硬式野球部の顧問を引き受け、バスを運転して静岡へ遠征試合に出かけました、8 戦し 1 勝しかしない弱いチームでした。でも、1989 年（平成元年）秋期関東大会で優勝し 1990 年選抜高校野球大会に関東代表として甲子園に出場する事が出来ました。

1980 年から 1992 年まで JARL の評議員を務めました、その間、1982 年には JARL 総会「常陸総会」が水戸市で開催されました。また 1985 年には「つくば万博」が開催されました。期間中 8J1XPO が運用され、HF の送受信機を会場から 3 Km 離れた小野崎に設置し、万博会場から UHF でコントロール運用する形態が取られました。また、外国人のゲスト運用も行われました。

1977 年ころから DX をはじめ、1978 年に DXCC 100 を申請し 1990 年にオーナーロール、2003 年トップワン、完成に 27 年かかりました。今は DXCC CHALLENGE に挑戦中で現在 2300、2500 を目標に頑張っています。

500 号、記念号発刊の時に茨城県支部長としてこの文を書かせていただき光栄に思います。土浦アマチュア無線クラブの益々の発展を期待します。

## クラブ報 500 号によせて

副会長 JE1RLK 田中 文之

平成 21 年 3 月、クラブ報 400 号が発刊されてから、早 8 年、500 号に達しました。クラブ員のご協力と、役員各局の努力の賜物と思います。

500 号おめでとうございます。

昭和 46 年 12 月、免許証取得以来、当クラブにお世話になり 45 年になりました。

この間の会報は、すべて綴ってあり、中でも一番古いのは、昭和 52 年 5 月号です、紙は、わら半紙でガリ版刷り、黄色く変色していました。

当時、事務局の集めた記事と、JA1VN 局の和文タイプで作られています。

一般の人は、和文タイプなど見たことがないと思います。大仕事だったと思います。

春の強風でアンテナ被害続出、JA1VN キュピカルクワット、バラバラ JA1IOA AS36 マスト 30 度おじぎ JA1PMS、JG1OSX、セカンド誕生、JE1RLK、JG1EXT 結婚、こんな記事が載っていました。楽しかったこと、又、苦しかったこと、懐かしく思い出しました。



これからも、苦しいこと、楽しいこと、沢山あると思いますが、600 号 700 号と続くよう、楽しいハムライフ、そして、楽しい思い出を作っていきましょう。

土浦アマチュア無線クラブ員各局の、ご協力、よろしくお願いたします。

← JN1VVE、JE1RLK

於；竜ヶ峰山荘

## 会報 500 号おめでとうございます

副会長 JL1SUJ 松本 好史

毎月発行して下さる事務局の皆様、原稿を寄せて下さる会員の皆様に感謝申し上げます。私も昭和 63 年に無線を始め、クラブに入会させて頂きました。

オンエア ミーティング、各種行事などにも参加して、少しずつですが、無線の楽しさを覚えました。「継続は力なり」 これからも 600 号発行に向けて、クラブ員として頑張っていきたいと思っています。



左から JL1SUJ、JH1WGP、JO1LEA、JG1JLU

於；竜ヶ峰山荘



## 会報 500 記念号に寄せて

事業幹事（前会長）JR1CCP 長 塚 清

会報 500 記念号の発行おめでとうございます。昭和 49 年から 42 年間に渡り発行を継続してこられた事は事務局の皆さん、寄稿いただいた会員の皆さん、長期にわたり地域のアマチュア無線クラブの活動に支援・協力をされた会員の皆さんの力の結集だと思います。本当にありがとうございます。そしておめでとうございます。



私ごとですが、高校の時無線を始めた兄（故 JH1PJI）の後を追ひ、昭和 44 年（1969 年）中学 2 年で試験を受けその年の秋に JR1CCP を開局しました。それから満 48 年。途中 10 年ほど QRT 期間がありましたがずっと続けてくることができました。

土浦アマチュア無線クラブには平成 13 年（2001 年）に入会し 17 年目になります。

委員・役員を担当させていただき、微力ながらもクラブ運営に協力することができました。

さらに、平成 27 年 4 月から 2 年間会長を務めさせていただきました、地域・県内の多くのイベントに皆さんの協力をいただき無事任期を終えることができました。改めてお礼申し上げます。

開局後、平成 3 年（1991 年）に現在の住いに越してアンテナを建て意気込んで再開し、以来 25 年もたってしまいました。無線の交信も好きですが、無線機、アンテナ、周辺機器などのイジリ・改造・構想・妄想・自作（分解/壊し）の電子工作好きのラジオ少年（中年）だと思っています。大学も就職先も秋葉原だったことはラジオ少年を続ける“力”になっていたと思います。今も秋葉原へ通勤していますが、水曜日の定時退社日・金曜日の 17 時以降はチョー楽しみです。60 歳を超えましたがもう少し秋葉原（≠会社ではない）に通いたいと思っています？！

最近、開局したころの憧れだった無線機をいくつか入手しました。開局時にカッコイイと“ビビッと”きた FT-200、欲しかった FT-101/TS-520、クラブの先輩の山崎さんから頂いた KWM-2、会社の先輩から譲り受けた FT901DM ラインなどを手にすることができました。

IC-71,FDAM-3 や RJX-601 も入手。新スプリアス規制により、あと数年（平成 34 年 11 月まで）しか交信には使えなくなってしまうかもしれませんがこれら真空管&OLD RIG を加えて変更申請をしました。お気に入りの FT200 は SSB フィルタ 1 本なので SSB ではとてもいい受信音ですが、CW では同時に数局聞こえます。平日の昼にこいつで出てみようと思います。

アマチュア無線の楽しみ方にはいろいろなアプローチがあると思います。自分なりの楽しみ方を見つけ出して末長く楽しんでいけたらいいなと思います。皆さんも、もっともっと楽しみましょう！そして土浦アマチュア無線クラブの運営にご協力ください。



# アマチュア無線を長く楽しむために

JA1CCN 沖田 康紀

私が土浦アマチュア無線クラブに入会したのは、2006年だったように思います。気が付くと、すでに10年以上経っているんですね。早いものです。いろいろとクラブの皆さんに教えていただきながら、今日に至っています。

500号を迎えるということは、単純計算で41年と8か月かかるわけです。私は編集の仕事をしているので、1冊の会報をまとめる大変さはよくわかります。それをこんなに長期間続けてこられたのは本当に頭が下がる思いです。一つのことを長く続けていくのは、とても素晴らしいことですね。

## ● アマチュア無線を長く続けるために大事なこと

アマチュア無線を長く続けるために大事なことは、「良い仲間と巡り合う」ことだと感じます。これはアマチュア無線に限ったことではないと思いますが、仲間にいるいろいろなことを教えてもらい、教えてあげることで人は成長していきます。クラブに入って活動するのは、その仲間と巡り合うための一番の近道だと思います。

そして自分が成長する（上手くなる）ことで、数あるアマチュア無線のジャンルの中で自分に合った新しい楽しみ方が見つかるものです。

## ● 私のアマチュア無線の楽しみ方

私の場合は、「コンテスト」「移動運用」「アンテナ製作」が、アマチュア無線を楽しむ上での3本柱になっているように感じます。そして、これらはそれぞれ独立した楽しみ方ではなく、それぞれが関連しあって、面白さをさらに高めてくれていると感じます。

「コンテストで交信局数を増やすために移動運用に行く」「移動運用で作ったアンテナを試す」「目的やバンドに応じた移動運用地を探して出かける」「コンテストに必要な性能のアンテナを作ったり、いろいろな場所での移動運用に対応できるアンテナを試行錯誤して作ったりする」それぞれが関連し合っ、楽しみ方の幅を広げてくれています。

もちろん他にも楽しんでいることはたくさんあります。記念局との交信だったりアワードだったり…。できることが増えると、それだけ楽しみ方の幅も広がります。自分のやりことが見つかったら、それをより楽しむためにいろいろなチャレンジをすると、さらに面白くなっていきます。これがアマチュア無線を長続きさせる秘訣のように思います。



展望台移動に使うために作った430MHz用ヘンテナ。関東UHFコンテストにて



21MHzのデルタループと垂直に立てたツェップ。全市全郡コンテストにて



会報の5月号で紹介した7MHz用のホイップ。駐車場のような狭いところで使います

# 会報500号発行によせて

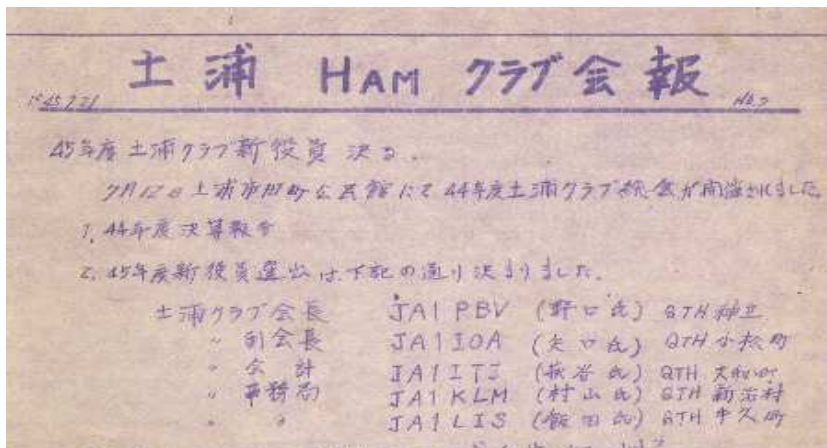
JA1LIS 飯田芳雄

会報500号の発行おめでとうございます。

昭和50年7月の1号発行から500号発行までは長い年月でした。これまでの発行に携わった多くの関係者各位に敬意を表します。

私の土浦クラブへの入会は、昭和40年ころ50MHzのAMで土浦の局と交信しクラブの入会を勧められたのが始まりでその後現在までお世話になっています。

会報の記事は多種多様にあり無線以外の趣味等の記事も興味深く読み、又クラブの活動状況分かるので会報が楽しみでした。



昭和45年当時発行の会報

(まだ不定期発行)の時、トランジスタ技術講座を連載。

JA1GLB伊勢山さんが載せてくれました。まだ真空管の時代で私には大変参考になりました

が、未だに半導体は苦手の状態です。

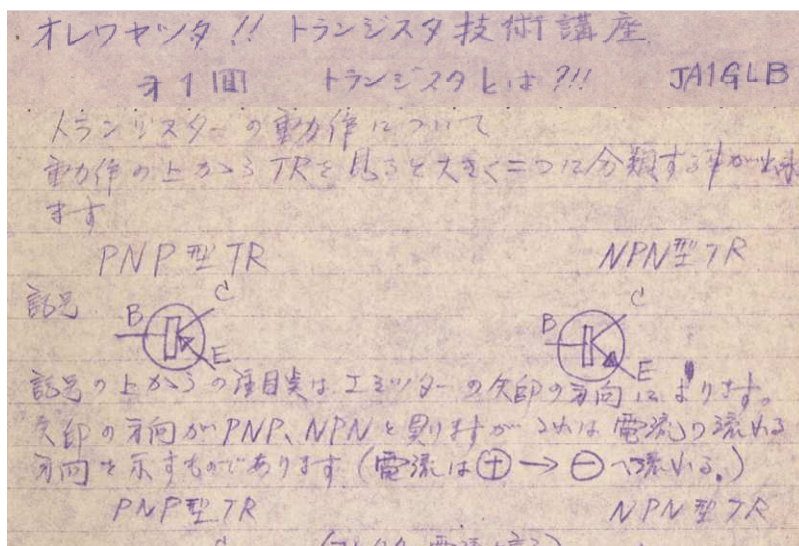
ちょうどそのころ JA1KLM 村山さんと事務局を担当になり会報の発行を行いました。不定期でしたが JA1KLM 局が原稿の収集と纏めを担当して私が封筒への折り込み、宛名書きを担当しました。局数はまだ少なかったのが宛名書きは苦にならずコールサイン、名前、住所まで覚え又顔を思い出しながら楽しく書き送付していました。

400号でも書きましたが、故 JA1VNN 矢口先生の言葉が有ります。

「多忙でオンエアミーティングや行事に参加出来ない方は会報を楽しみにしています長く発行しましょう」と。

これから600号、700号……1000号と続くことを祈ります。

(飯田さんの記事を元に探し出しました。事務局より)





## クラブ会報 500 号発刊にあたり

事業幹事 JE1NVN 西田 清作

土浦アマチュア無線クラブ会報 500 号発行おめでとう御座います。

昭和 52 年に茨城県に移り、当時会長の JA1IOA 矢口 OM 宅へ行き、すぐに当クラブに入れて頂きました。色々な行事にも参加して、多くの当クラブ OM 各局とお会い出来、お別れも致しました。月一回のクラブ会報を楽しみにしていた一人として、事務局の皆さん有難う御座いました。これからどうぞ宜しくお願いいたします。



学園中心部から筑波山の麓へ QSY して 8 年、ほそぼそとお空に出没しておりました。

昨年おふくろから解放され、部落の役も今年の 3 月までで退役。

電信関連コレクションの電鍵も 500 台を超えておりますが、最近では珍品の電鍵にはお目にかかりません。そういえばモールの暗記方式に土浦式とあり、海軍の教本になってお

りました。また、となりの作谷地区にはかつての飛行場跡在りだとか？ 谷田部、明野、笠間等にも旧軍部等の施設があった事など、歴史等の興味もわいてきました。

あちこち徘徊して足腰を鍛えて、これからはアマチュア無線をおおいに楽しみたいと思っております。また、電鍵、マイク等の情報等、有りましたらクラブ員各局、宜しくお願いいたします。

2017 年初夏

## 会報 500 号発行おめでとうございます

事務局におかれましては、毎月の発行お疲れ様です。そして有難うございます。

7N1RMT 寿柳 日出喜

このような機会にクラブ員で居ることを有難く思います。二年ほど前にアマチュア無線を再開し、近所にクラブは無いかと探して入会させていただきました。

クラブの事業には、たまにしか顔を出すことが出来ませんが、皆様の活動に刺激を受けアマの免許も取得出来ました。

今後のクラブの継続・繁栄を祈念して寄稿させていただきます。

これからも細々と続けて行きたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願い致します。





## あこがれのキュービカルクワッドアンテナ

運営委員 JF1KZD 池田正之

無線に興味を持った頃、私は中学時代でしたが竹竿アンテナで世界中とつながると言うキャッチフレーズでした。

私の開局は、バーチカルアンテナ (7MHz~28 MHz) とオール真空管の FT-401S でした。DX (海外局) と交信したいとアレコレ奮闘するも八木アンテナを上げているローカル局にはかないませんでした。

あこがれは そのころキュービカルクワッド (以下、CQ) です。学生で常磐線の車窓から見える JA1PMS OM や JA1IOA 局 (クラブに入ってから判った) の CQ にあこがれました。学生時代竹竿と銅線で作れると言うことで競って CQ を上げたものです。私も庭に自作のはしごタワーと 21 MHz の CQ アンテナを上げました。高校のクラブでは、7 MHz の 30%短縮ではありましたが校舎の屋上に自作しましたが?しかし どちらも (自分も) 高さ不足と技術不足であんまり活躍しませんでした。

時は流れ土浦クラブに入会してから JA1JRK 局の CQ に圧倒させられました。30mH 7エレ CQ その技術の高さとノウハウはとてもビックリ、またまたあこがれです。また JS1VPY、JA1OVF 局が上げていたパーフェクトクワッドもすばらしかった。いつか自分も もう一度 CQ に挑戦したいものです。



## 土浦アマチュア無線クラブ会報500号発行おめでとうございます

事業幹事 JG1JLU 斎藤繁之

私は東京生まれで仕事は若い時から東海村とつくばを行ったり来たりを2往復して



当クラブには 15 年程前に入りましたが、実はつくばで開催された万博開催時の少し前から万博記念局の準備・運用等で矢口先生 (JA1VN) と葛綿さんのつながりで 30 年程前から当クラブの各メンバーと交流が有り長い長いお付き合いをさせて頂き各行事等に参加して交流を深めてきました。

これからも天国にいるメンバーも安心して楽しく見られる様に一致団結して当クラブを皆さんで盛り上げていきましょう。

## 500号記念クラブ会報おめでとうございます！

JG1IIF 林 雅男

歴代の会長さんや役員の方々の努力のたまものと感銘を受けました。なによりもクラブ員皆さんの協力があったことと思います。

私も土浦クラブに入会させて頂き3年目を迎えることができ、コンテストやボーリングなどいろいろな行事に参加させていただき、忘れかけていた無線の楽しさや会員さんとのアイボールでいろいろお話をとうして楽しい時間を過ごさせていただき感謝しております。

以前、私の住んでいる茨城町にもクラブがあり（旧 JR1ZMM）50～60年代の頃は全盛でクラブ員もたくさんいて、いろいろな行事も行いましたが 年齢も上がり仕事も忙しくなり、何と言ってもボルテージの低下で自然消滅状態になりました。

でも、今でも有志で年に2,3回食事会アイボールをしています。（ちなみに CQ 誌4月号 P139 右下に出ています）どのクラブでもそうでしょうがボルテージを維持していくのは非常に大変なことです。どうか、土浦クラブ各局さんができるだけ参加して息の長いクラブにさせていただきたいと思います。

私事ですがアンテナ等の整備も終わり全バンド、モード共 波の出せる状態ですがたまに受信はしていますが送信はしていないので早急に QSO デビューをしたいと思っております。



## 土浦クラブ会報500号おめでとうございます

事業幹事 JE10ON 坂本竜一

会報業務に携わってこられた事務局の方々、各役員さん及び毎月記事を投稿されてきた会員さんには感謝です。

私がクラブに入会して9年あまり経ちますが、未だに無線に関しては素人同然です。

クラブを紹介していただいた JG1WMN や中学時代に無線の講義をしていただいた JN1VN も他界され寂しい限りです。クラブの先輩諸氏に指導を仰ぎながら、無線の更なる楽しさを教えていただければと思っております。これからもクラブの発展に微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。

600号、700号と続いていくことを期待しております。



JE10ON、JH1UOJ、7M4OZD

（於；竜ヶ峰山荘）

## 祝 土浦アマチュア無線クラブ 会報 500 号

JH1AAO 西本隆夫

土浦アマチュア無線クラブ会報 500 号おめでとうございます。

私がどの様にしてアマチュア無線と関わったかについて少々述べさせていただきます。小学校時代（都内目黒区駒場）には鉱石及びゲルマニウムラジオを作り、父の 5 球スーパーで 7MHz で交信する近所のアマチュア無線局の電波を聞きました。

ラジオ放送しか聞いた事の無い私としては大変興味ある電波でした。ラジオの製作が好きで、6 年生の時に 3 球のラジオを自作しました。今から思えば、父が文句も言わずに部品代を出してくれた事をありがたく思います。秋葉原のラジオセンターに真空管を買いに行きましたが、球やのおやじが、小学生の私を見て、開口一番“安い球でいいんだろう”と言った事が忘れられません。棚から出した真空管をテストベンチに差し込んで暫くすると、ラジオの放送が聞こえてきます。すると、球やのおやじは指先で真空管を弾くではありませんか。するとラジオからジャリ・ジャリとノイズがでます。“こりゃダメだ”と代わりの球を出して同様にテストしてノイズが出なければ OK です。真空管は白い無地の箱にいらしてもらいました。今考えれば“かなり安物の真空管（双葉？）”でしたが何とか使えました。

当時の秋葉原名物は“たたき売りの店”“万年筆工場が火事になり焼け残ったとの触れ込みの万年筆売り”その他、怪しい店が多数ありました。高校時代から大学時代の初め頃までは A3 の送信機、高 1 中 2 の受信機を自作して学校の勉強よりアマチュア無線の基本を勉強しました。当時、雑誌としては、初歩のラジオ、ラジオの製作、電波技術、CQ 誌等がありました。

最初はワイヤレスマイクを作り自分の声がラジオから聞こえると感激したものです。発信コイルを中波用、短波用と変えて実験しましたが、大きな LW アンテナに繋いでトランジスタラジオで移動して確認しましたが、200m 位が最長到達距離でした。そんな時、高校の学友が 1964 年の CQ 誌に 12AT7 単球の送信機の記事があり、その送信機を製作したのです。学友は私の家から 1.5km 位離れた場所でしたが、信号（周波数は 7050KC）は私の受信機にはワイヤレスマイクとは比較にならない程ハッキリと聞こえ強烈な印象を受けたことを思い出します。

その後、私も初歩のラジオに簡単な短波送信機の回路図とコイルデータを見つけました。6ZDH3A-6ZDH3A-6ZP1 のハイシグ変調器、6D6 の無調整回路の送信部でした。電源部は整流管 12F を使いました。送信機としての機能は立派に揃っています。真空管は壊れたラジオから調達、アルミシャーシ、真空管ソケット、プラグインボビン、3525KC の FT-243 水晶(当時 500 円)、水晶ソケット、タイトバリコン等は僅かな小遣いで何とか調達しました。夜遅くまで組み立てて、音声を入れると出力トランスからハイシグ変調独特の響きが聞こえます。また、3.5MC 用にプラグインボビンに巻いた終段のコイルにワントーンランプを近づけると明るく光り受信機で聞くと力強い電波を確認する事が出来ました。これが最初に自作した A3 送信機です。

その後、同送信機は改良し 6ZP1 を 6V6 に、6D6 を 6BA6-6BQ5 に変更、電源の整流管は 5AR4 に強化して更なる A3 送信機の勉強をしました。そして、最終的には 6BQ5 の変調器、ファイナルは 807 になりました。

また、受信機はリードの AS-1 ケースにトリオのコイルパック、IFT、アルプス電気のスプレッド付き 3 連バリコン等を組み込み、当時のトリオの 9R-59 もどきの受信機を作りました。この受信機は周波数安定度が悪くダイヤルから手を放すと信号が逃げて行き、上手に受信する為には指先の微妙な動きが必要でした。これらが私のアマチュア無線の原点だと思っております。そうそう高校 2 年の時に、学校から帰ると私の家の前に長いホイップアンテナを付けたジープが止まっているのです。

そっと近づいて見ると、車内には沢山の計測器が積んであり、怖そうなおじさんがレシーバーを耳にあて受信機らしい機器のダイヤルを回しているのです。

多分、電波管理局の移動監視車だったのかもしれませんが一時間位したら帰りました。

しかし、学校から帰ってくる私が電波を出していたわけでもないのに、どうして移動監視車が私の家の前に止まっていたのか、いまだに分かりません。その後は大学受験で QRL となり暫くの間は無線はお休みとなります。



さて、大学生になると物理部（勿論アマチュア無線もある）に入部しました。当時は A3(A3E)から A3J(J3E)、つまり AM の時代から SSB の時代へと変わり始めた時代でした。物理部でアマチュア無線を楽しんでいる先輩の殆どが 1 アマを取得しておりこれには驚きました。今から思えば無線に関して、良い事、良くない事、殆ど学友から教えられました。アマチュア無線の各種コンテストで優勝した兵が学友に

何人もおります。学校が総武線飯田橋駅近くにあるので秋葉原はすぐそばですから、時間がある時は秋葉原に頻繁に行きました。お店に置いてある無線機を見ただけで満足しました。秋葉原にはトヨムラ、ロケット、トミヒサ、その他、アマチュア無線関連のお店が多数ありました。当時すでにアマチュア無線技士の免許を取得しておりましたが、昭和 43 年に中国電波管理局から JA4GGR の識別信号を貰い正式にアマチュア無線の仲間入りを致しました。そして、アルバイトでお金を貯めて八重洲無線の SSB 送信機 FL-50 を購入し SSB の仲間入りをしました。

高校生時代から A3 送信機については勉強しましたが、憧れの SSB の電波を出した時は、それはそれは嬉しかったです。ところが実際にお空に QRV すると某局長からクレームを受けました。せっかく楽しく QSO しているのに、当時 CQ 誌の SSB セクションを担当していた某局長から声がかかり“電波が汚い”と文句を言われたのです。特に送信機のマイクゲインを上げていたわけではありません。スプラッターのある電波など出していなかったと思います。どの様に汚いのですか尋ねると“饅頭をふんずけた様な汚い音だ”との事です。“理由はどうであれ、ひどい事を言う人だ”と思いました。この方は現在も 7MHz に QRV しておられますが困った事に昔と殆ど変わりません。当時もう一人 SSB セクションを担当された放送局に勤務の局長がおられまして、大変気になりましたので、“私の電波は汚い音だと言われたのですが如何でしょうか？”と聞きますと、“その様な事はありませんよ、独特の音がしております、心配しないで下さい”とのコメントをいただきました。相手を気遣ったコメントをされる方だと思いました。アマチュア無線は趣味の無線ですから、何時も相手の事を気遣



い楽しく QSO したいですね。学校を卒業後は就職先が都内なので、アマチュア無線は正月休み、5月連休、夏休み位しか QRV 出来ません。

しかし QRV しなくてもアマチュア無線を忘れた事はなく、CQ 誌からの情報、そして昔から通いなれた秋葉原のハムショップへの定期的な訪問は見ているだけで大変楽しいものです。当時はアマチュア無線最盛期でデパートの大丸、東急ハンズでもアマチュア無線コーナーがありました。本格的に QRV 出来ない状況が約 30 年連続、このままではアマチュア無線を楽しむ時間が無くなってしまいう事に気づきまして、2002 年頃から 8mh 短縮 DP で中野区から QRV を始めましたが、さっぱり聞こえず、電波も飛びませんでした。地上高が低くフルサイズのアンテナなど夢ですから当然かもしれません。しかし、この様な粗末なアンテナでも CONDX が VYFB な時は珍局と QSO 出来る事もありました。環境に恵まれず一時はアマチュア無線を止めようと考えた時もありました。しかし残された時間、大好きなアマチュア無線を少しでも楽しもうと、2013 年に取手市に QSY 致しました。

アマチュア無線を楽しむ為が一番大切なのは、場所とアンテナですね。場所を探す条件としては、周囲に大きな建物が無い事、高圧送電線・鉄塔等が近くに無い事、危険物の貯蔵施設が無い事、工場など雑音の発生源が無い事、そして山が近くに無く、なるべく平地である事などでしょうか。これらの条件をほぼ満たしているのが現在地なのです。ここは周りに住居はありますが、その他は条件を満たしております。筑波山が遠く北側に見えますが、その他の方向には特に障害物は何も見えません。晴れた日の夕方には南西の地平線に富士山がハッキリと見えます。そしてタワーについては強風時の事も考えクランクアップタワーと致しました。

アンテナについてはご近所の事も考え、最初から大型アンテナを建てる事は遠慮し 14MHz は八木系のアンテナを、その他はダイポール系のアンテナを設置致しました。いきなり大型アンテナを設置しなかった事が功を奏したのか、ご近所の同意も無事にいただき、JH1AAO の識別信号で関東総合通信局から 1KW の免許状が届きました。遅ればせながらこれらの設備を用いて各種コンテストへの参加、そして海外のペディション局との QSO など以前では到底聞こえない弱い信号も聞こえ、多くの DX 局と QSO が可能となり DXCC も 310 を CFM して FB な結果が出ております。今後はアンテナのグレードアップをする予定です。

さて、趣味を長く続けるには同じ趣味を持つ同好会に属する事が宜しいと思います。



アマチュア無線を継続的に楽しむ為には、アマチュア無線クラブに属する事が良いですから 2015 年 5 月に土浦アマチュア無線クラブに入会させていただきました。竜ヶ峰山荘からコンテストにも参加させていただきました。そして、クラブ員の皆様との楽しい懇談にも参加させていただいております。今後は各種イベントにも積極的に参加させて戴こうと考えております。

土浦アマチュア無線クラブは今年で 61 年の歴史を誇るクラブです。これからも歴史あるアマチュア無線クラブとして益々の発展を祈念致します。

以上

## 土浦アマチュア無線クラブ会誌 500 号に寄せて

J11DHL 寺島 栄一

土浦アマチュア無線クラブ 500 号まことにおめでとうございます。ここまで会を支え活動を続けてこられた方々に対し、深く敬意を表したいと考えております。

500 号といえば節目に当たり、関係者の方々の感慨はひとしおのことと拝察いたします。

私は叔父が 2 人、過去アマチュア無線をしておりまして、国家資格を取得するよう勧められ、3 級を取得して現在に至っております。

叔父の部屋を訪ね、そのシャックやアンテナの大きさを見て子どもながらに感動したのを覚えております。叔父が交信したオーストラリアの方が、わざわざ叔父を訪ねに日本にやってきたことを聞き、アマチュア無線は、おおげさかも知れませんが世界平和を構築するのに一役買っているなという印象を持っております。

最近になって老後の趣味を考え、また科学と身近に接することができる無線の世界に関心を持ち、自己啓発をしたいということから、無線を始めることとなりました。現在は FM と SSB の 7, 21, 28MHz で出ています。なかなか交信ができずに苦労していますが、CW にも関心を持ち、最近電鍵を購入しました。

無線の世界では相手の顔が見えませんが、マナーを守って交信することが大切だと思います。また交信している時にやり方がわからない初心者を見かけたときは仲間でするので助けてあげましょう。インターネットの普及により、アマチュア無線は下火になった雰囲気がありますが、古くからあるアナログ技術とデジタル技術との融合を図り、利便性を高める工夫は必要でしょう。コミュニケーションツールとしてアマチュア無線に勤しむ方は大部分礼節をわきまえた言葉使いをしているのを見て、インターネット上の電子掲示板に心ない書き込みや暴言、中傷などが目立ってきている残念な状況になっておりますことから、アマチュア無線家がコミュニケーションは、こうして実践するのだというお手本を示すべきだとも考えております。私は高校の教員ですので、部活動にアマチュア無線を採用したいとも考えていますが生徒を集めたり、予算を確保するのにハードルが高い状況です。今後ともよろしく願います

### 7 月 29 日はアマチュア無線の日です

1941 年（昭和 16 年）12 月 8 日太平洋戦争が始まると共に禁止されたアマチュア無線が 1952 年（昭和 27 年）7 月 29 日再開された。これを記念して昭和 48 年 JARL が制定しました。



（事務局より）

## 私のアワード2 あれから8年

アワード幹事 JI1WLL 小澤 靖

土浦 AMC 会報第 500 号発行お目出度とう御座います。生存率 67%の病気から 9 年が経ってしまいました。この間に私より先に蓮の花咲き乱れる極楽浄土に召された方が多く私だけしぶとく生きて居ります。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

さて その後のアワード取得ですが 7MHz SSB 特記で全市全郡全区全町村と QSO し各アワードを取得しました。特に JA1IOA 矢口さんに各地に移動して頂き助かりました。DXCC も Mix で残り 2 つになり、5 バンド DXCC アワードも取得し、これ以上は無理かなと言うところまで行き着きました。で 毎日の目標がなくなりかけましたが どっかい 7MHz CW で全市全郡を完成していないことに気づきこれに目標を合わせました。ハムログでチェックすると残りは 63 市、郡は 17 郡、区は 13 と分かり、完成しないのであの世に行くわけにはいかないと悟りました。毎日 7MHz CW を聞くことに専念しています。

DX も聞くのですが私にとっては 2 次業務になってしまいました。と言いながら 2



局目の P5 もコンファームしていません。私から無線は取り上げられないのかもしれませんが。そんな訳で CW がメインモードになってしまいました。これは JA1IOAA 矢口さん、JA1PBV 伊藤さんのせいで二人とも海外や国内移動が CW にしか出てこないからの影響が大だと思えます。RTTY も QRV してるのですが JA1ITJ 萩谷さんの追いかけに対抗できず、見事追い越されてしまいました。

これも国内ばかりしか聞いていないのとバンドコンディションそれに残りのエンティティが難しいところばかりになった事があります。ちなみに RTTY 残りは 49 です。CW は 300 の大台に成りましたのでこれくらいかなと思えます。こんなところが 400 号から 500 号発行の歩みかなと自己満足している今日この頃です。この発行される頃、土浦 AMC の会長が JG1HJV 森田さんになっているのですが 彼が高校生の時からの無線付き合いで私の余命率が約 10 年に成る訳が分かりました。月日の経つのは早いです。私の気づくのが遅いのか ポットに向かってこんにちとは挨拶する今日この頃のような気がします。

悪人世にはばかりの例え通り 茶の湯を飲み倉庫から引っ張り出した火鉢に炭を入れ手をかざして暖を取る毎日を過ごす日が多くなりお迎えが来るのか ぼけるのが先か 綾小路きみまろの世界にどっぷりつかっております。600 号発行時に記事が書けるのか楽しみに毎日を過ごします。 73 合掌





## 創刊 500 号によせて

会計 JO1LEA 松澤 由幸

土浦アマチュア無線クラブの会報 500 号創刊おめでとうございます。  
発刊にあたり、これまでご尽力下さった多くの方々に感謝いたします。

会報第 400 号の時は、会長という大役のもと発刊させて頂きました。その節は、大変ありがとうございました。あれから約 8 年が経過し、月日が経つのは早いものと実感いたします。

微力ながら、これからもクラブ運営に協力して行きたいと思っておりますので、各局よろしくをお願いいたします。  
(円内；JO1LEA 親子)



## 会報 500 号おめでとうございます

事業幹事 JQ1QMU 神林幸四郎

会報 500 号発行おめでとうございます。

会報発行に尽力された事務局の皆さん、関係者の方々に感謝するところです。

私が無線を始めるきっかけは、車で友人と旅行に出かける時に、無線があると便利だから資格を取るよう勧められ、昭和 59 年に電話級の資格を取り、昭和 60 年に土浦クラブに入会させて頂きました。熱を入れて無線に取り組むのかと思いきや、無線機の電源を入れる事もなく、一生涯の趣味として無線をやるのか、やらないのかを決めることもなく、ただ土浦クラブに席を置き現在に居たつています。



JQ1QMU

JJ1VLM

これからの人生、クラブ行事には出来るだけ参加し微力ながら少しでも、土浦アマチュア無線クラブに貢献出来る様努力して頑張りたいと思っております。各局これからも宜しくお願いします。



## クラブ会報500号記念誌発刊に際して

事業幹事 JJ1VLM 澤村整一

会報500号の発刊おめでとう御座います。毎月送られてくる会報を楽しみにしております。500号といえますと、40年以上の年月を費やしていることとなります。この地道で大変な作業を続けておられる会員の皆様に敬意を評する次第です。

さて、私は、平成27年4月に、当クラブに入会させていただき、2年を経過し3年目に入りました。私のアマチュア無線のスタートは昭和45年に電話級の従免を取得し、当時は賑やかでありました、50MHzでオンエアしておりました。自宅の屋根にルーフタワーを設置しアンテナにスイスクワッドを使用し、毎晩遅くまで波を出していました。しかし、高校を卒業し東京の会社に就職し、地方の現場に配属になり自然と無線に接する機会がなくなり、当然のことに局面の更新をせず失効してしまいました。

それから、数十年経過し現在の地に居を構え家の間近にあるJA1IOA 矢口氏のFBなアンテナを拝見し、またアマチュア無線を始めようという気持ちになり、色々調べ始めましたところ、3アマを取得すれば出力50Wでの運用ができるということを知り受験し再免許の申請し運用を始めました。アンテナを立てるスペースがなくベランダにV型ダイポールを取付オンエアしておりましたが、50MHz帯は当時の賑わいなく、HFの運用も始めたのですがCQを出している局をコールしてもパワーのある局にはどうしても勝ち目がありませんでした。そこでもっともっとパワーを出したいという気持ちが募り3アマ取得1年後に2アマを受験、取得しパワーアップをして現在運用し始めましたところ、今度は、アンテナの状況に不満が出始めました。ただ、現在の住宅環境では八木アンテナのようにビームアンテナでは、ビームの方向を変えたときに隣家の敷地に入ってしまう、トラブルが発生する恐れがあると思い、7mの2連ばしごにHF帯V型ダイポール、50MHz HB9CV、144MHz及び430MHz帯垂直ダイポールにて運用しております。

私も、還暦を過ぎ仕事の方も徐々に減らして、これからリグの前に向かう時間が多くなると思います。移動運用、コンテスト、アワード取得等に積極的に参加し、残された時間を有意義なハムライフを送りたいと思っております。今後とも諸先輩諸氏の御指導よろしく願いいたします。

最後になりますが会報500号記念誌発刊誠におめでとう御座います。



JE1OON、JG1HJV、JH1UOJ、JJ1VLM

土浦アマチュア無線クラブ会報 500 号発行  
誠におめでとうございます。

JA1OVF 山崎 建志

DXCC Challenge 2000 を達成しました。



## 無線を始めて 43 年近く！！！！

運営委員 JJ1ATZ 大久保和夫

会報 500 号発行おめでとうございます。

私がアマチュア無線資格電話級を取得したのは高校 2 年の時で S49/12 でした。すぐに開局し、当時のコールサインは JI1FFW でした。

故 JG1WMN 葛綿 OM の弟さんで JG1WMM が同級生だった為に土浦クラブの事は当時から知っていました。でも私は高校生だったので入会資格がありませんでした？

(若い人には霞ヶ浦ハムクラブ?があったような気がします?) あれから 43 年近くになります。

社会人になってからは、会社の同僚にもアマチュア無線を楽しんでいる仲間がいたため、内輪で楽しんでいましたが、QTH も筑波町から土浦市に変わり、土浦市に長く住む事になったのに (S51~H4)、なぜ H24 まで入会する機会がなかったのかと残念に思っています。

さて、私がアマチュア無線を始めた当時はトリオの TS-520X を使用していました。アルバイトをして貯めたお金でやっとの思いで購入しました。親戚の竹林から宗竹を 2 本切り出してトラックで運んできて裸のアンテナ線を買ひ、21MHz の  $\lambda/2$  ダイポールアンテナ (バラン無し) を上げました。

また、初めて DX をしたのは、片言の英語でブラジルだったと記憶しています。

胸がドキドキした覚えがあります。あれから私の無線暦は波がありました。43 年近くになります。会報が定期発行されるようになったのが昭和 49 年 10 月からと知り、正に私のハム人生のスタート直前から現在まで続いている事になります。ここまで続けてこられた影には、皆様の協力と発行に関わられた方々の相当な熱意と努力があった事と思います。



私は、皆さんと共にクラブの活動に参加して会員間の親睦を深めると共に楽しいハムライフを送らせて頂きたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。

最後に、土浦アマチュア無線クラブへの若い会員の勧誘等で、今後のクラブの継続と発展に協力して行きましょう！！！！

## 土浦アマチュア無線クラブ会報について その2 (その1は400号)

事務局 JL1LLM 中田 達也

土浦アマチュア無線クラブ会報 500号発行おめでとうございます。

400号発行記念でも記しましたが、500号と言うことは、毎月1回発行していると換算して  $500 \div 12 = 41.6$  年もの長い間発行されていた事になります。改めて発行に関わった土浦クラブの先輩 OM 各局に敬意を払いたいと思います。

さて記念すべき第1号は昭和49年10月に発行され、当時としては画期的な和文タイプを使用して作成されたものでした。(下記一部参照)

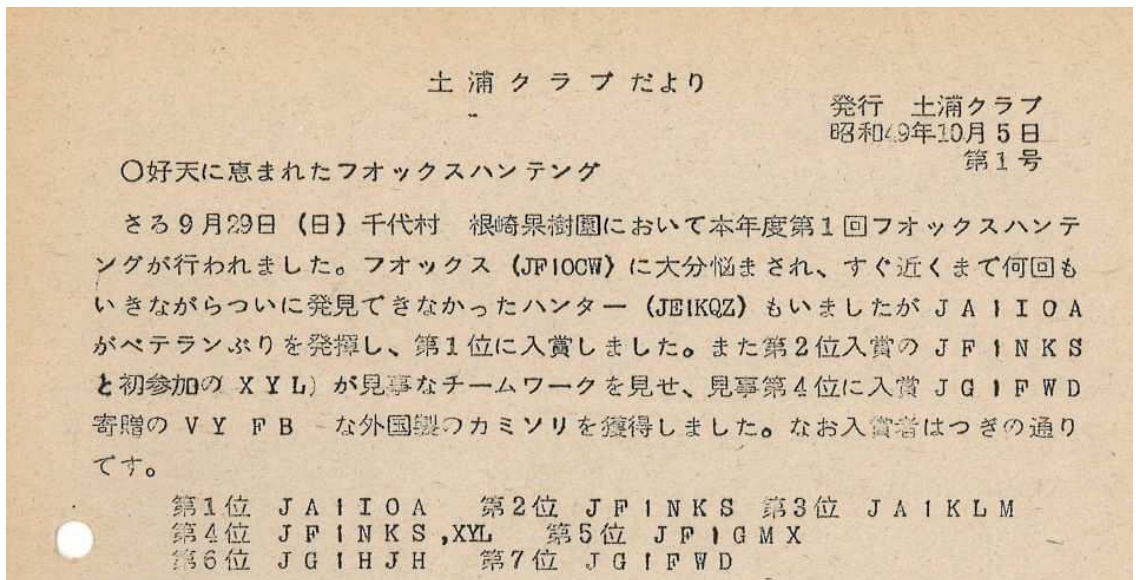
内容は、9月に行われた FOX ハンティングについての結果がレポートされ、現在、JARL 茨城県支部長の JA1IOA 局が優勝されたようです。

その他、県支部大会の案内や、各局の現状のレポートなど、B5版2ページ分が現在と同様に書かれています。

その和文タイプですが、漢字を1文字ずつ探しながら打つ方法で、B5版1ページに費やす時間は1~2日かかったと思います。本当に大変だったと思います。作成された JA1VN 局に頭が下がります。

ちなみに、JA1LIS 飯田 OM が今回の記事にて書かれており、私の400号記事にも記載しましたが、昭和44年~45年に計4巻の幻の会報が発行されています。

これからも、600号・700号を目標にみなさんでがんばりましょう。宜しくお願いします。





## 会報 500 号記念に寄せて

事業幹事 JN1VVE 高野 初江

私がアマチュア無線の免許を取ったのは、平成元年の夏です。普段は面倒なことを言わない夫ですが大型自動車免許を禁止されて、代わりに思いついたのが無線でした。一人晴海へ行って受験しました。

それから2年後園長から頼まれ、夫の許可を得て大型免許も取得しました。当クラブに入会したのは平成4年の春だったと思います。同じ時期から幼稚園バスの送迎を始めました。

JA1VNの奥様と同じ職場だったのも不思議なご縁です。園バスの送迎の間は事務をしていましたので、銀行やお使いもあります。そんな時に電波を出すと真鍋のVNがコーヒーを飲みに来いと、呼んでくれました。ずいぶんお邪魔したものです。真鍋では、たくさんの仲間にもお会いすることができましたし、クラブの会計を担当していたころは、皆様のコールサインも覚えました。

400号記念の前にVNがいなくなり、500号までは8年4か月ありますが、その間にJG1WMNまで…。

現クラブ員みんなのために、そして旅立った方々に安心していただくために、居心地の良いクラブでありたいと思います。

なぜ今の時代に無線なんて、と言われることもあります。様々な業種の方がいて、個性豊かなグループだと思います。こんな幅広いお付き合いも悪くないですね。WMNの置き土産で、人間関係が少し広がりました。

お二人の元気な姿を思いながら、叱られないように頑張っています。

今は、魂の世界から見守っていて下さることでしょう。『そこはそうじゃないよ』とか『忘れないでくれよ』と言いたいのかもかもしれません。

100年経ったら逢いましょう！ 生まれ変わって、またお会いできると思っています。世の中がどんなに進化しているのか、住み心地の良い時代であってほしいです(\*^\_^\*)



## クラブ会報 500 号記念発刊によせて

会計監査 JO1FYS 久松充信

クラブ会報「500号」の記念発刊 誠におめでとうございます。

前回の 400号記念誌発行から、もう 500号かと時の立つのは早いもので驚いていますと共に、町会の役職でクラブの役に立たず何も出来ませんでしたこととお詫び申し上げます。

毎回クラブの連絡や行事等の内容のお知らせ、掲載は大変な事と思います 心から感謝いたします、そんな中 「500号」の記念誌の発刊企画は大変ご苦労様です。

今は亡き J A I V N 矢口先生がよく言っていました、会報記事を少しでもいいから書いてと？文才の無い当局は今でも申し訳なく思っています。

クラブ内の各報告やクラブ員の活動状況や色々なコーナーがいつも楽しみにしています。

他の会員さんも同じかなと感じています、会報は各行事やオンエアーミーティングに出られない方々の唯一の情報誌であり貴重なものと思っております。

他の役員様、事務局の皆様には深く感謝を申し上げます。あまり役にたたない当局ですが出来るだけの協力はしたいと思っていますので今後とも宜しくお願いします。



### \* 新入会員の 7M4PLK 藤枝美千江さんの自己紹介文です。

皆さん、こんにちは、7M4PLK 藤枝です。

すでにオンエアーミーティングも参加させてもらい早くも 6回を数えます。下のセカンドが幼稚園の時に免許を取り 20年以上、初めの内は OMさんに対して控え目にしていましたがアイボール会と言って出かけることも多くなり友達もたくさん増えました。

その中でも、とても大切な葛綿さんが亡くなってしまいとても悲しく毎日、心の中に思わない日はありません。声が出ていないと心配してくれて雑音が入っているとアンテナのメンテナンスをしてくれていました。直してくれても、お金は取ることはせずに「声を出して下さい！皆さんが喜ぶますから」と帰って行かれました。

しばらくの間スイッチを入れる事が出来なかった無線機。ここまで気にかけてやってくれた葛綿さんに対して元気な声を出す事が願いだっただのではないかと最近やっと気が付きました。

そんな時に入山さんからの誘いがありました。少し迷いましたが以前にも何度か活動に参加させていただいた事もあり皆さんの顔を思い出しました。これからは仲間入りさせてもらいたくさんアイボールさせてもらいたいと思います。

どうかよろしく申し上げます。

# 会報 500 号記念おめでとうございます

事業幹事 JG1TPW 野尻 紀年

約半世紀に渡り途切れることなく続けられているのはあまり類がないのではないのでしょうか。これこそがクラブにとって偉大な業績ではないのでしょうか。

私自身も昭和 50 年代に 1~2 年事務局を担当したこともあり当時は鉄筆を使って書いていましたから字も不揃いで読みにくかったのではないかと……私の字では？ ふと今さらながら思います。

出来あがった原稿は故矢口先生 (JA1VN) に渡しガリ版 (謄写版) で刷って貰っていましたから手間のかかった会報でしたね。一寸した昔話です。

(野尻さんの記事から探し出しました。この時の会長は、今は亡き JG1WMN 葛綿さんでしたね。そして入会は、S.50 年だったことが会報から窺えます  
事務局より)



## 土浦クラブ

昭和54年度中1号通巻第42号

昭和54年4月1日発行

発行者 土浦クラブ事務局

登録番号 14-1-18

### ◎土浦クラブ総会開かす

まゝ3月25日(日)午後1時より土浦市民会館第4会議室に於て昭和53年度の土浦クラブ定例総会が開催されました。当日出席者は47名(参加21名、委任26名)で過半数に達し、又議事進行に当りJA1VNが議長に選ばれ各事項について討議された結果次の様に決まりましたので報告します。

#### 1)昭和54年度役員

会長 JG1WMN

副会長 J11WLL

事務局 JA1VN, JG1TPW

地区担当幹事

(東) JK1NFB (西) JF1MFE (南) JF10CW

(北) JF1VGY

顧問 JA1VN, JA110A

### 土浦クラブだより

発行 土浦クラブ

昭和50年1月1日

第4号

クラブ員の皆さん、明けましてお目出とうございます。昨年はクラブ運営について何かと御協力、御支援をいただきありがとうございました。昨年のクラブ総会後はクラブ費の残金がほとんどなく、クラブ運営に大分苦勞をしましたが、会員の御理解と御協力により短期間にほとんどの方が納入してくれましたので本当に助かりました。あらためて御協力に対して厚く御礼申し上げます。昨年の暮れには土浦クラブで行なった講習会での合格者にも局の免許がきましたので入会者も多数いることと思います。世帯が大きくなると運営も難しくなりますが、アマチュアコードの精神をふまえ、仲良く、楽しいクラブにしていくよう努力していくつもりですのでよろしくお願ひします

土浦クラブ会長

J E I R L K

### ◎入会者のお知らせ

J G I W M N 葛綿 燦

土浦市常名町字並木 37  
CM一蘭川電設



## 土浦クラブ会報 500 号を祝う

事務局 JF1MFE 久松 満男

土浦アマチュア無線クラブ会報 第 500 号記念発刊おめでとうございます。

前記念発刊 400 号を 2009 年に発刊して早くも 500 号の発刊とは早いもので、それでもあれから 8 年の歳月が流れ沢山の行事や思い出が重なり感極まります。事務局として、毎月の会報の発行は試練の感があります、200 号発刊、300 号は出来ず 400 号発刊、歴代の記念誌を手にして、そして、今回の 500 号は感無量です。これも、偏に歴代会長さん、役員の方々、また会員の皆様のご協力のお陰かと思えます。

前回の 400 号の発刊には多くの方々からそれぞれの思いを投稿頂きましてご期待に沿えるよう当時としては、カラーは値が張りましたが記念号として奮発をしました。

お陰で素晴らしい記念誌が出来たかなと感じました。400 号を極めて読み返しますと感深いものがあります。前回は今は亡き JA1VN 矢口孝志先生の思いを寄せて頂いた方も居りましたが 今回はこの記念号に間に合わず 遠い旅立ちと成りました JG1WMN 葛綿繁さんがおります。JARL や茨城県支部、土浦アマチュア無線クラブの為に活躍をしてました方が居なくなるのは色々と支障が出てきます。その分私達が頑張って無線界の発展を努力しなければ成らないかなと思えます。又、最近無線家が少なくなってきたのは寂しい限りです。

JARL や各県支部や各クラブの方々も色々努力はしていますが中々思うようには行きませんですね、一時はアマチュア人口が 70 万、80 万と聞いたことがありますが、今では 30 万にも満たないとか？無線も本気でやれば面白いのですね！

前回にも話しましたが当局が始めたのが昭和 47、8 年頃それから 45、6 年と長いですねー

その間会報は続いていた記憶があります。一時は危ぶまれた時もありましたが、それも乗り越えたのも役員さんのお陰かな！ それもこちらから役員さんや会員さんに強制的に発注してそれに答えてくれましたお陰ですね。これも会報を楽しみにして居る皆様が居るからでしょうか？ いずれにしても他愛の無い会報ですがこれまで続

いて来たことは嬉しい限りです。体の動く限りは、事務局共々頑張りたいと思いますが、何せお年な者で何処まで続くか？ね。

皆様のご協力でクラブ報 500 号が発刊されたことにあらためておめでとうございます。



左から JH1WGP、JF1PEL、JF1MFE、JR1CCP  
ALL JA コンテスト参加中 於；竜ヶ峰山荘

## 会報 500 号を迎えて

事務局 JH1WGP 大木 武

前回 400 号記念特集から早くも 8 年が経ち今回目出度く 500 号を迎える事が出来ました。事務局一員としてよくもまあやって来られたと痛感します共に改めて、これも会員各位のご協力の賜物と深く感謝致します。

昭和 40 年代の初頃、東京鎌田まで受験に行き電話級を取得したが、ハム人口は増加に転じ既にプリフィックスは JA から JH に移っていました。無線機を買うべく会社名は忘れましたが秋葉原の店にお金を送ったが既に倒産していた。当然お金も戻らずがっかりしていたところ、これを聴いた会社上司(山村さん)が「俺が自作した無線機をやる」私にはガラクタに見えたがその気持ちが有り難く、頂く事にしました。

この上司、京都出身で関西では有名な OM だと先輩が言っていました。この上司には厳しく仕事の考え方、進め方、問題追及の仕方など沢山教わりました。感謝しています。頂いた自作品は使う事無くパチアタリにも全部処分してしまいました。が一本だけ真空管が残っています。

その後 9R59D, TX88A をいじり回した後 TR7100 を購入。そして最初の QSO が JA1XVT 関君でした。このことがきっかけとなり彼はまだ高校生でしたが彼を通じ JA1VN 先生にお会いし土浦クラブに入会となりました。その時の会長が JA1ITJ 萩谷さんでした。張りきっていて頼もしく感じられました。

あれから半世紀も過ぎてしまいましたがその間の技術の進歩は凄まじいものです！

アマチュア無線界でもしかりです。しかし我々クラブはそれに遅れることなく、あるいは牽引し、今でも進化しているものと確信しています。私も出来るだけ年に一回位は簡単な事でも私にとって新しい技術には挑戦して行きたいと考えています。これが会報を続けて行く原動力の一つだと思っています。これからも会員全員の力で我が「土浦アマチュア無線クラブ」を継続して行きましょう！

<写真>

下：クラブ入会のきっかけとなった  
トリオ TR7100 今もあります。

右：上司から頂くも一つだけ残した  
真空管 シルバニヤ 1625



## 会報 500 号記念誌発刊に際して

事務局 JA1PBV 伊藤寧夫

最初に、長きにわたりクラブの維持、会報の発行と関係者の方々のご努力に感謝いたします。

自身を考えると無線活動も何度も中断したりしていましたが、クラブ員の諸先輩方の誘いもあって、最初のコールサインを切らさずに今なお電波を出し続けられています。これもクラブで知り合ったの方々のおかげと感謝しております。

先輩の方々でもすでに他界された方がおられますが、私自身、生涯の友として無線活動を続けていきたいと考えています。

この写真は、JA1ITJ 萩谷さんから頂きましたが、土浦市役所（旧地）で茨城県支部の Fox ハンティングが行われた時の写真です。（昭和 45 年頃）

一番右が JA1IOA 矢口さん、黄色の女性の左が JA1ITJ 萩谷さん、その左が JA1KLM 村山さん（故人）です。

この写真は銀塩カメラで撮影されたものですが、色あせど記録としては十分に当時を思い起こさせます。



クラブの会報もしかりだと思います。内容はともかく、記録として目や耳や口で感じる以上に後世に残ります。

皆さんの是非、会報への投稿をお願いしたいと思います。後に、振り返ってみればよき思い出として残りますよ。投稿は誰のためでもありません、ご自身の生きていた証拠として残ります。

次の記念号は、600 号になると思います。その時まで、クラブの活動に、会報の発行に全力を注ぎたいと思います。

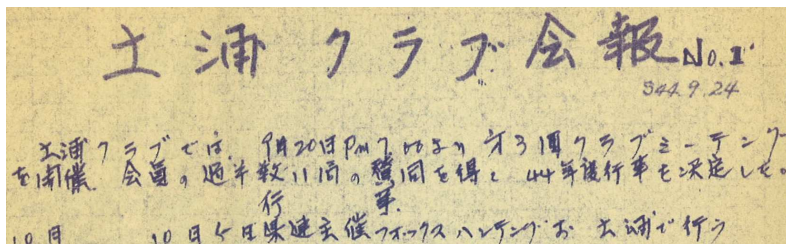
皆様のご多幸とご健康を祈念し、私の投稿をしめたいと思います。 73 & 88



## DVD から紐とく土浦アマチュア無線クラブの歴史

事務局 JH1WGP 大木 武

事務局の JL1LLM 中田さんが、過去の会報誌を DVD に収めてくれました。これを見るとほとんどの各号が網羅されていると思います。本当にご苦労様でした。これを見ながら歴史を振り返って見ました。



一番古い会報は、S.44年9月で「土浦クラブ会報」No.1です。その後会報の名称が「土浦HAMクラブ会報」、「土浦クラブだより」再び

「土浦クラブ会報」「土浦クラブニュース」「土浦アマチュア無線クラブニュース」そして現在の「土浦アマチュア無線クラブ（土浦アマチュア無線クラブニュース）」になりました。

又、土浦クラブ誕生は、会報 S.52年6月発行から S.31年の中ごろとなります。もう還暦を過ぎた処で本当に古い歴史を持っていることがわかります。

県としてのミーティングは行われませんでした。所で、土浦市内には昭和27～28年ごろかなりアクティブなグループがあり、その中心となったメンバーは JAI1W (現在オスカーの社長) JAIQZ JAIABR (土浦クラブ員-大山電気社長) JAIABG JAIAON JAIAZQ などで、職業訓練所の杉田先生が主として技術的な相談役となっていました。(職業訓練所の通信科が桜川の近くにあった)しかし、そのほとんどがS W Lで、中には自作の送受信機を使用してアンカバー運用していたものもありました。昭和30年の中ごろまでには、メンバーのほとんどが国試に合格し開局しました。(今と違い開局するには電監より2人の検査官がきて、自作の送信機・受信機・アンテナ。その他必要書類等すべてについて検査をされました)さらに、土浦クラブを正式に作ろうとの話がもち上がり、昭和31年の中ごろだったと思いますが(残念ながら期日不明)茨城県のトップをきってJARLに正式に登録、さらに土浦クラブ専用の私書箱(第4号)もつくりました。ここに、土浦クラブが正式にスタートしたわけです。その後何回かの危機がありましたが無事のりこえ、昭和45年に土浦ジュニアクラブを分離し、県内唯一の成人だけのクラブとして発足し現在に致っております。今や、土

その後1999年4月から「土浦クラブ」の名称が「土浦アマチュア無線クラブ」に変更し現在に至っています。この時の会報には、クラブ名称について「土浦クラブ」「土浦無線クラブ」「土浦アマチュア無線クラブ」などと混乱していると指摘があり市内団体にも土浦クラブが多数あり協議の結果「土浦アマチュア無線クラブ」とし会則を変更したとあります。

以上誠に簡単ですが振り返ってみました。時折過去の会報を載せて見たいと考えております。

## 歴代会長の紹介

代	局名	期間	代	局名	期間	代	局名	期間	代	局名	期間
1	JA1ABR		11	JA1IOA	昭和 50 年 ～51 年	21	JG1JGA	平成 8 年 ～9 年	31	JR1CCP	平成 27 年 ～28 年
2	JA1KYK		12	JF1MFE	昭和 52 年 ～53 年	22	JF1MFE	平成 10 年	32	JG1HJV	平成 29 年
3	JA1DYP		13	JG1WMN	昭和 54 年	23	JM1KBH	平成 11 年 ～12 年			
4	JA1PMS	昭和 43 年	14	J11WLL	昭和 55 年 ～56 年	24	JF1KZD	平成 13 年 ～14 年			
5	JA1ITJ	昭和 44 年	15	JG1IIE	昭和 57 年 ～58 年	25	JL1LLM	平成 15 年 ～16 年			
6	JA1PBV	昭和 45 年	16	JG1TPW	昭和 59 年 ～60 年	26	JH1WGP	平成 17 年 ～18 年			
7	JA1KLM	昭和 47 年	17	JG1IJK	昭和 61 年 ～62 年	27	JO1LEA	平成 19 年 ～20 年			
8	JA1GLB		18	JF1MFE	昭和 63 年 ～平成 3 年	28	JG1OSX	平成 21 年 ～22 年			
9	JA1XVT	昭和 48 年	19	JF1PEL	平成 4 年 ～5 年	29	JG1NUV	平成 23 年 ～24 年			
10	JE1RLK	昭和 49 年	20	JS1VPY	平成 6 年 ～7 年	30	JE100N	平成 25 年 ～26 年			

平成 28 年クラブ旗を新調しました。  
旧土浦クラブ旗は高価なモノでした。



## 平成 29 年度役員名簿

役員	局名	氏名	運営委員		事業幹事	
			局名	氏名	局名	氏名
会長	<b>JG1HJV</b>	森田 隆				
副会長	<b>JE1RLK</b>	田中 文之	<b>JF1FBF</b>	木村 光彦	<b>JA1BNH</b>	西成 弘
副会長	<b>JL1SUJ</b>	松本 好史	<b>JF1KZD</b>	池田 正之	<b>JA1PMS</b>	鳥羽 久良
事務局	<b>JH1WGP</b>	大木 武	<b>JF1PEL</b>	山越 道則	<b>JE1OON</b>	坂本 竜一
事務局	<b>JF1MFE</b>	久松 満男	<b>JJ1ATZ</b>	大久保和夫	<b>JG1JLU</b>	斎藤 繁之
事務局	<b>JA1PBV</b>	伊藤 寧夫	アワード担当		<b>JG1TPW</b>	野尻 紀年
事務局	<b>JL1LLM</b>	中田 達也	局名	氏名	<b>JN1VVE</b>	高野 初江
事務局	<b>JH1UOJ</b>	入山 俊昭	<b>JE1OON</b>	坂本 竜一	<b>JQ1QMU</b>	神林幸四郎
会計	<b>JO1LEA</b>	松澤 由幸	<b>JI1WLL</b>	小澤 靖	<b>JJ1VLM</b>	澤村 整一
会計監査	<b>JA1IOA</b>	矢口 蕃	/		<b>JE1NVN</b>	西田 清作
	<b>JO1FYS</b>	久松 充信			<b>JR1CCP</b>	長塚 清

### JARL 茨城県支部役員への協力会員

<b>JA1IOA</b>	矢口 蕃	支部長
<b>JA1PBV</b>	伊藤 寧夫	副支部長 (ホームページ)
<b>JF1MFE</b>	久松 満男	運営委員 (行事担当)
<b>JN1VVE</b>	高野 初江	運営委員 (会計幹事)
<b>JO1LEA</b>	松澤 由幸	運営委員 (県南)
<b>JH1AAO</b>	西本 隆夫	監査指導委員
<b>JQ1QMU</b>	神林 幸四郎	監査指導委員

### 編集後記

今回も 400 号に続き JARL 会長、関東本部長、JARL 副会長を歴任された根本様、県支部長の皆様から記事を頂き、また多くの会員各位からの寄稿により 500 号記念特集号を成功する事が出来ました。皆様のご協力誠に有難うございました。編集にあたってもう一度 400 号を見ると上手にカッコよくまとめてあるのに気づきません。今回は上手く行くか不安な事もありました。しかし多くの会員の情熱ある記事に勇気をもらい、また 500 号プロジェクトチームの連携プレイと相まって完成に漕ぎ着きました。

これを機会にさらに我々の会報を盛り上げて行きましょう！

500 号プロジェクトチーム： チーム長 JR1CCP 実行委員長 JL1LLM

実行委員： JA1PBV, JF1MFE, JG1HJV, JH1UOJ, JH1WGP, JO1LEA

皆さん、記事をお待ちしています。近況で結構ですので、連絡してください。

平成 29 年度 第 4 号	通巻 500 号	JARL 登録番号 14-1-0018
発行日：平成 29 年 7 月 1 日	発行者：土浦アマチュア無線クラブ事務局	
オンエア ミーティング：毎週月曜日 PM9:00～土浦レピータ (439.70MHz)		